

活動概要

- ウガンダとカンボジアにて、市民と医療施設の2方向から、手洗いを基本とする衛生の向上のための取組を推進。
- 「100万人の手洗いプロジェクト」として、商品の出荷額1%を、ウガンダにおけるユニセフの手洗い普及活動の支援に当てている。また、ウガンダに「現地法人サラヤ・イーストアフリカ」を設立し、現地生産の消毒剤やその使用方法を含めた衛生マニュアルを提供。
- 持続可能なパーム油類(RSPO認証油)の使用や、アブラヤシ生産地の生物多様性の保全に取り組むと同時に、消費者へのエシカル消費の啓発を実施。

SDGs実施指針における実施原則(本アワード評価基準)

普遍性: ウガンダにアルコール手指消毒剤を継続的に供給し、東アフリカの衛生向上と共に雇用も創出。

包摂性: 「100万人の手洗いプロジェクト」を、ユニセフの支援を通じて実施。

参画型: 生活用水が不足しがちなアフリカ諸国に対して、アフリカ製アルコール手指消毒剤を供給。

統合性: 衛生への取組による多産から少子への移行、教育の機会確保、女性の社会進出というサイクルの実現。

透明性と説明責任: ウガンダやボルネオでの取組をサラヤの持続可能性レポート等で随時更新、公開。

▼簡易手洗い装置(ウガンダの学校)

